

## CLINIC POLICY

## 歯と体のつながりを重視し 歯科から全身を治す医療革命を起こす

日本の財政危機は今や待ったなしの状況。さらなる高齢社会の進行とともに懸念される医療費の増大を抑えるために歯科医師として何ができるか。

新神戸歯科の藤井佳朗院長は、

体全体の健康を考えたホリスティックな歯科医療の確立と普及を目指す。

写真／谷口 巧

足の手術を2回も受けたにもかかわらず、痛みが治まらず30年間まっすぐに立てず苦しんできた人が、わずかな歯科治療で楽に立てるようになった。パソコンの前に立つとふらついていたのに、インプラントを除去すると平気になった(YouTube 動画：インプラントで体がふらふら、<http://youtu.be/pz9NMqX8Dyo>)、など数々の症例を動画で公開する、新神戸歯科の藤井佳朗さん。口は体の一部であり、歯を治療すれば体も変化するので、医科と歯科を分ける考え方が誤りだと話す。

「日本でも、昔は口中医とも呼ばれていたようで、全体のなかの口という意識でした。ところが明治維新でおかしくなった。当時、歯科医科の二元論と一元論の論争があって、口は体の一部で全身とつながっているのだから、医学の一部だという一元論と、技術的な要素が多いから医科とは分けるべきだという二元論が対立しました。結局二元論が勝って、医科と歯科が分離され、今に至っています。それがそもそもの間違いでした。歯をいじった瞬間に体が変わる。だったら歯をいじって体を治したらいいのです」

歯科医としては五代目にあたり、なんと初代は江戸時代。当時はまだ歯科医という名称はなく、入れ歯師、歯抜き師という呼ばれ方もあった、という。明治になり医療制度ができてから歯科医が誕生した。藤井さんは代々の歯科医の家庭に育ち、歯科の道に進んだが、医科と分離された状態に違和感を感じ続けていたそうだ。

百年続く神戸の歯科医院を継ぎながら、東洋医学を取り入れ、噛み合わせと全身の関係、バランスの大切さを考えた歯科治療に真正面から取り組んできた藤井医師。肩こりから、アレルギー、心臓病まで引き起こす、歯と全身の深いつながりと治療の現場を聞いた。



藤井佳朗 FUJII YOSHIRO

1960年兵庫県生まれ。85年愛知学院大学歯学部卒業。初代学長・小出有三賞受賞。89年同大学大学院修了。歯学博士。2009年国際鍼灸電気治療大学フェロー認定。現在東京都、神戸市にて開業する。日本医用歯科機器学会理事、生涯健康学会理事、噛み合わせと全身との関連を考える会顧問などを務める。著書に「咬合のマジック」(デンタルダイヤモンド社)「歯科からの逆襲」(現代書林)「歯科からの医療革命」(現代書林)「歯科からの電磁波対策」(現代書林)「帰ってきた歯科からの逆襲」(現代書林)など。

## CLINIC DATA

新神戸歯科 Shin Kobe Dental Clinic

URL : <http://kami-awase.info/>